2018 西日本豪雨：上之保（長良川支流津保川）

2018 年西日本豪雨で長良川支流の津保川水害の状況について 1 名の死者が出たことは報道されたが、連日の中国・四国地方の壮絶な被害状況の報道に隠れてほとんど伝わってこなかった。今朝の中日新聞の第一面「プラ原料 数十ﾄﾝ流出 関・津保川」の記事を見た妻が、「友人の家の帰りにここを通ったが新聞の写真の通りだったよ」と言った。他からも、上之保（津保川上流）で災害が起きているという話は聞いていたのでとても気になり、本日（7/13）午後、津保川市上流を見に行った。

津保川沿いの県道を北上。富加町を越えるあたりから県道は埃っぽくなり、泥水を被った跡であることがわかる。沿道の家屋・商店では、まだ浸水後の後片付け・掃除が続いていた。津保川は澄みきっていたが、河畔の林、竹やぶは夥しいポリ樹脂が絡み、まるで七夕祭りのような不気味な光景が続いた。

県道は川べりの路肩が崩壊する現場が現れ始め、片側交互通行規制箇所が増えていった。「この先、行き止まり」の安全柵で閉鎖はされていたが、地域住民のために一車線分は明けてあった。この「関所」を数か所通過して北上したがついに「小樽」地点で全面通行止め。

車を止め歩いてさらに県道を北上すると道路が完全に壊れていた。

現場で地元建設業者に出会った。この上流の家屋ではもっと大きい被害があるとのこと。「どれくらいで開通できる？」と聞くと「ものすごい仕事が来そうで困った」とめどが立たず渋い顔をしていた。疲れて病気・事故にならないよう願った。

道路が壊れると地中の水道管も壊れる。左写真の黒いポリ管は緊急に仮設地上配管をして上流の集落に給水しているようだった。

左は、「小樽」バス停そばの家屋。１階はまだ全く手のつけようがない感じ。

右、コンクリートの堰堤が崩壊している。今回の洪水の力に驚かされる。

左：橋の上流側に添架された水道管。激流と流木に大きなダメージを受けているが、耐えたようだ。集落の命の水を守ったと思う。

他の災害場所と同じように、ここでも橋に流木が行き止まり。護岸、道路の崩壊を引き起こしている。

左：上之保中学校の運動場は、持ち込まれた廃棄物と土砂でいっぱいであった。校内放送は作業員やボランティアの人たちに向かって「無料で温泉に入れます。ぜひ利用してください」とアピールしていた。

左：県道を南下し、上之保小学校の少し上流で、落橋している水管橋を発見し、車を止めた。現役時代、このような橋梁工事現場をいくつか担当した私としては、とてもつらい光景である。

落橋した水管橋の県道側の浸水した家屋を見せてもらった。奥さんに話を聞くと上の写真の青線の示すあたりまで浸水し、必死で仏壇を移動させたそうだ。今も写真の通り床の間には茶色い水面の痕跡が残っている。畳は上げたまま、扇風機をフル回転して床下を乾燥させてみえた。

左：ポリエチレン樹脂置き場がさらわれた、東洋化学。橋の手前には右のように殿村上野地区浄化センターが浸水被害を受けたままとなっていた。下水処理はできているのだろうか心配だ。

この東洋化学から下流の津保川は、「七夕まつり」のような不気味な光景が続いた。